

埋蔵文化財発掘調査ニュースNo. 15

かが んじ みーぬ しん ぼる い せき

# 鏡水箕隅原C遺跡



2008年3月

那覇市教育委員会

# 鏡水箕隅原C遺跡発掘調査ニュース

## 1. はじめに

鏡水箕隅原C遺跡は、那覇市の南西側、東シナ海に面する海岸沿いに立地します(第1図)。

遺跡は、内閣府・沖縄総合事務局南部国道事務所が計画する沖縄西海岸道路「那覇西道路」建設に伴って発見されたものです。

この道路は、「慢性的な渋滞をきたしている本島の主要動脈・国道58号、331号の混雑を緩和するため」に、また、「那覇市街部及びその周辺の交通渋滞対策に大きく寄与し、那覇空港へのアクセス向上並びに南北の接続機能の向上を図るために計画」されたもので(事業概要等より)、今後の整備に期待が高まります。

## 2. 遺跡の概要

本遺跡は、陸上自衛隊那覇基地内に位置することもあり、遺跡の所在や詳細は不明でした。

しかし、道路建設計画に伴って実施された試掘調査の結果、工事予定範囲に四遺跡が確認され(A・B・C・D)、また、その後の他事業における調査で四遺跡が新たに確認されています。

このように、これまで詳細な文化財調査が実施されていない「基地内」には、新たな遺跡発見の可能性が高いと言えます(第2図を参照)。

さて、本遺跡の発掘調査は、平成17・18年度に実施されました。調査期間中には、「空中写真撮影」や「磁気探査」などの業務委託、「土器の分類」や「土器の文様の施し方」、「石器の石質同定」などの調査指導も依頼して調査をスムーズに実施しました。

一方、地区内からは不発弾の発見もあり、慎重な対応を余儀なくされたこともありました。

以下、箕隅原C遺跡の概要を紹介します(第3図を参照)。なお、今回記載した時代名称は便宜的に使用しました(第1表を参照)。

### 縄文時代早期相当期

遺跡の北西側から北側にかけて広がる遺物包含層(黒色土)が確認できました。特に北西側には、炉跡をイメージさせる焼土遺構や獣骨(イノシシの顎骨など)の集中など、当該期の生活を示唆する遺構・遺物が検出されています。

土器は、「爪形文」と称される資料の他に、別の文様を有すると考えられる一群も確認されています。この時期には、複数の土器形式が存在するようです。石器は、斧形の資料が多く出土しています。これは、全体を扁平な長方形に打ち欠いて形を整形し、刃の部分のみを丁寧に磨いているのが特徴です。

### 縄文時代前期相当期

遺跡の北西側に分布する貝塚です。大型の貝(ハイガイ・シャコガイ・サラサバイ・カキ・クモガイ等)が約550m<sup>2</sup>の範囲に堆積していました。

遺物は、赤土(マージ土)と砂・珊瑚破片が混在した明黄褐色の土層から出土しました。土器は、器面に条痕(沈線)が見られる一群です。貝殻などで施文した資料と考えられます。その他に、貝製のやじりや磨製の石鏃、大型の斧形石器など多様な遺物が確認できました。

### 縄文時代中期相当期

主に、白砂層から出土した土器群のなかに、鹿児島県で出土する縄文時代中期の土器が含まれていることが分かりました。この資料は、

器面の内外面に貝殻条痕とナデによる調整を施し、口縁部外面に突帯を条数貼り付けるものです。

### 弥生時代～平安時代相当期

遺跡の北東側に分布する貝塚で、約300m<sup>2</sup>の範囲で比較的小型の貝の堆積が確認されました。

多数の貝殻の他に、土器・石器・貝製品など多種多様な資料が得られています。

土器は、底部に窪みを有するものが目立ちます。また、口縁部に文様を貼り付けた資料も確認できました。石器は、斧形、磨石、敲石などが見られます。貝製品は、鏝と考えられるものの他に、小さな丸い穴を連続して施した装飾品も確認されています。

### グスク時代以降

遺跡の南側に主にその広がり確認できました。主な遺構としては、不定形で小規模なピット群、鍛跡状遺構、溝状遺構などが検出されています。これらは、調査の状況から考えると、畑跡など生産に関係する遺構と推測できます。

出土遺物は、中国産磁器、本土産陶磁器、銭貨などが得られています。これらは、16世紀～19世紀の資料です。

また、遺跡の北東側の琉球石灰岩露頭エリアにおいては、素掘りの井戸状遺構、柱の礎石などが確認されています。所属時期は不明ですが、特別な建造物が存在していた可能性があります。

## 3. おわりに

県内で最も古い時期に属する爪形文土器の出

土例は12遺跡が知られているようです。現在のところ箕隅原C遺跡が本島最南端の遺跡です。

本遺跡の年代観は、これまでの化学分析の結果、約6,140年前(爪形文土器出土層)、約2,490年前(縄文時代前期相当期の土器出土層)、約1,460年前(弥生時代～平安時代相当期の貝塚形成層)の数値が得られています。さらに分析を実施し、遺物の年代観と化学分析の年代について比較・検討していきます。

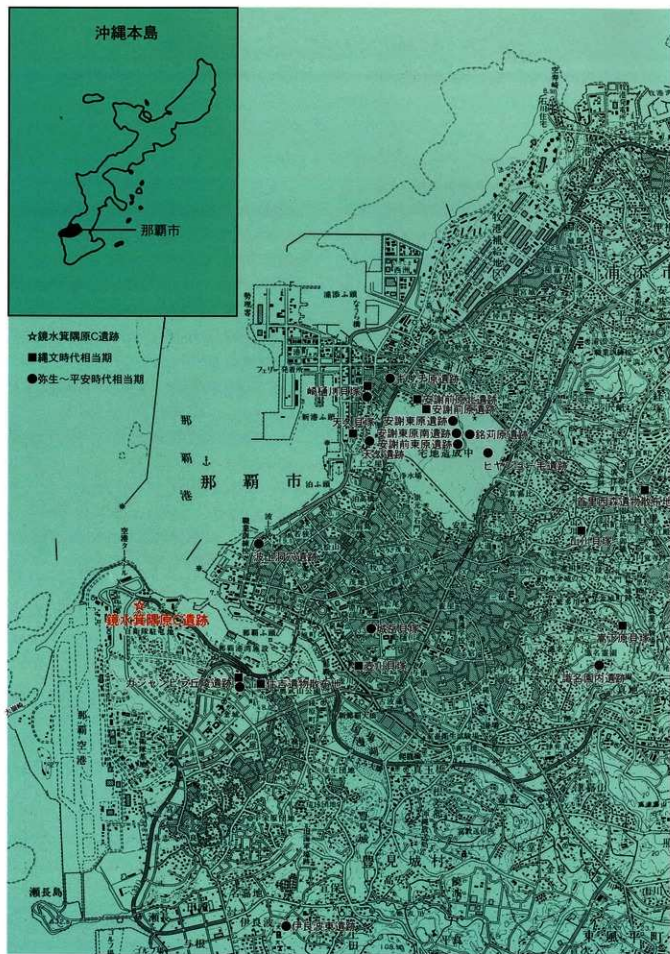
今後、遺跡の詳細は、緻密な資料整理を行い発掘調査報告書としてまとめている予定です。

なお、発掘調査の成果は、平成17年10月29日の遺跡見学会や同年11月1日～13日まで市立豊屋焼物博物館で開催した「なはの遺跡展」で、その一部を市民に公開しました。

第1表 沖縄諸島の暫定編年

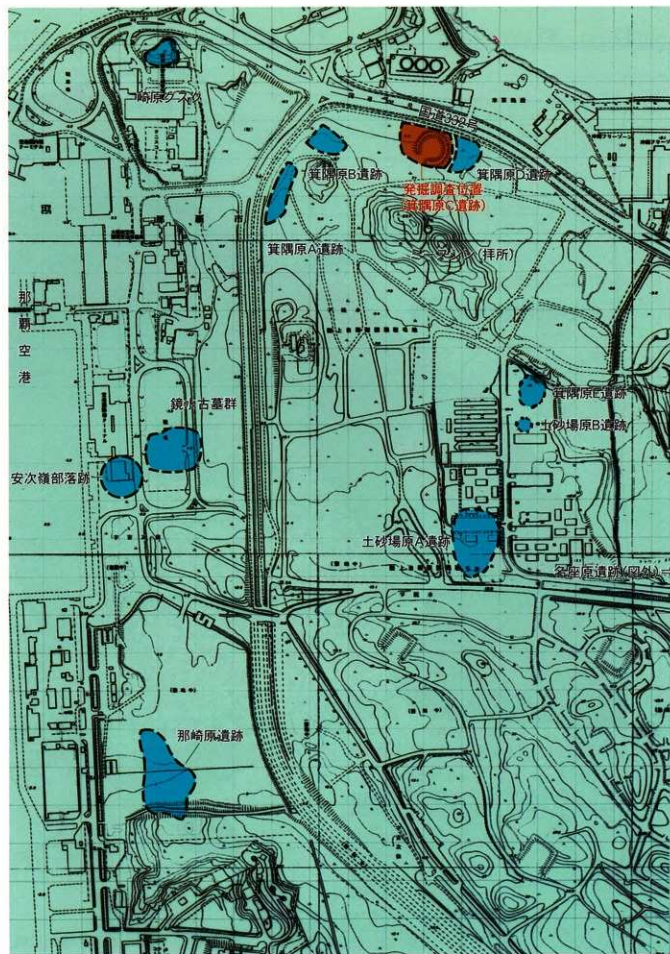
本 土	沖縄	土 器 形 式	発見遺跡名	その他の特徴	発行年月	
縄 文 時 代	前期	爪形文土器	那覇西遺跡	ヤブツ式 6070±1400J.P. 6500	早 期	
		爪形文土器	那覇西遺跡	6450±1400J.P.		
	中期	赤土(マージ土)	那覇西遺跡	赤土式土器 (鏡水式土器)	6450±1400J.P.	早 期
		赤土(マージ土)	那覇西遺跡	赤土式土器 (鏡水式土器)	6450±1400J.P.	
	後 期	赤土(マージ土)	那覇西遺跡	赤土式土器 (鏡水式土器)	6450±1400J.P.	前 期
		赤土(マージ土)	那覇西遺跡	赤土式土器 (鏡水式土器)	6450±1400J.P.	
	後 期	赤土(マージ土)	那覇西遺跡	赤土式土器 (鏡水式土器)	6450±1400J.P.	中 期
		赤土(マージ土)	那覇西遺跡	赤土式土器 (鏡水式土器)	6450±1400J.P.	
	弥 生 時 代	弥生式土器	那覇西遺跡	弥生式土器	弥生式土器	後 期
		弥生式土器	那覇西遺跡	弥生式土器	弥生式土器	
平安 時 代	平安式土器	那覇西遺跡	平安式土器	平安式土器	後 期	
	平安式土器	那覇西遺跡	平安式土器	平安式土器		
近 世 時 代	近世式土器	那覇西遺跡	近世式土器	近世式土器	後 期	
	近世式土器	那覇西遺跡	近世式土器	近世式土器		

○「フエンス」や「鏡水」時代の発掘調査で発見された。 (鏡水遺跡) 「鏡水」時代の発掘調査で発見された。 (鏡水遺跡) 1994年3月 P133 より引用しました。



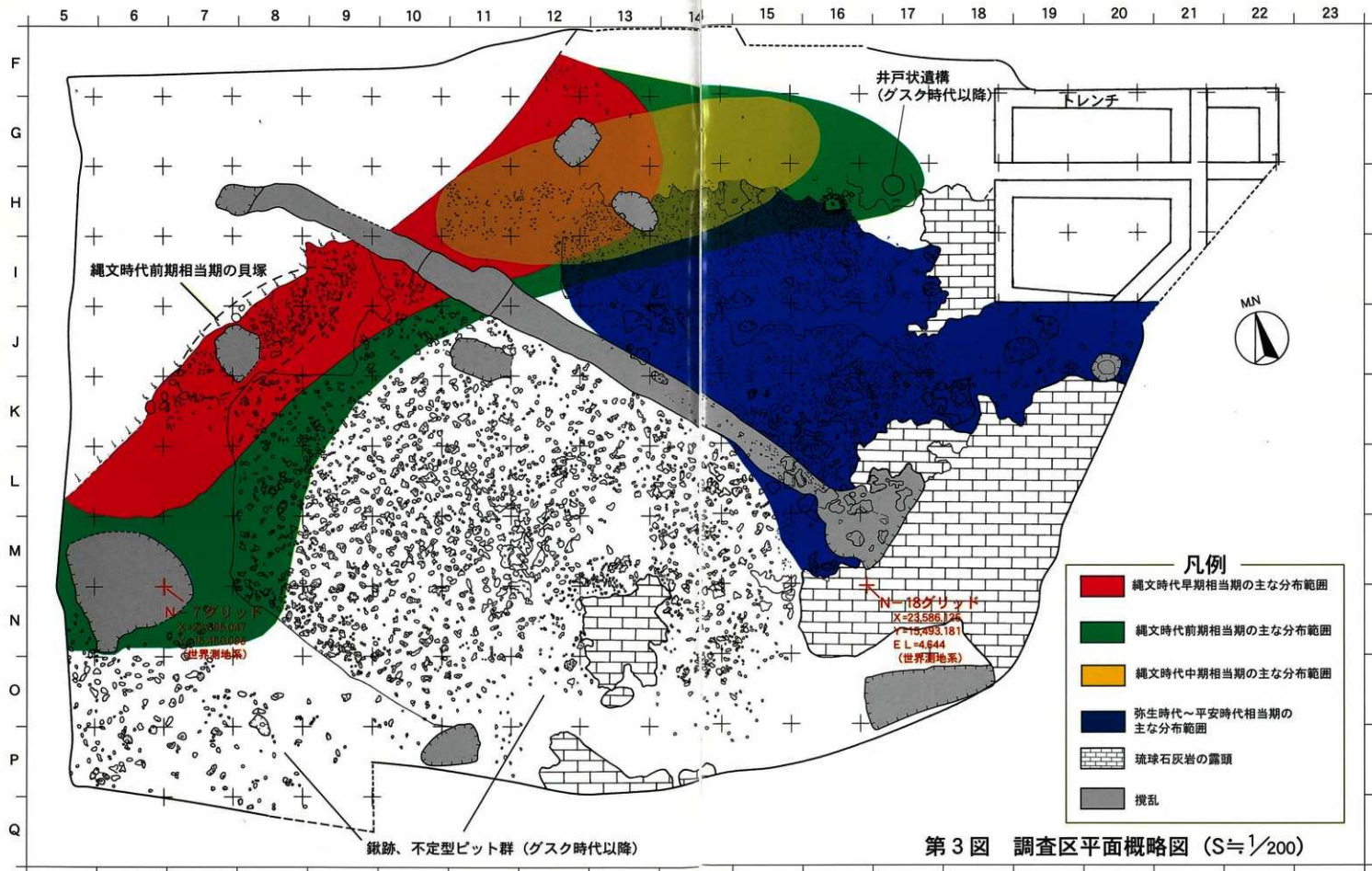
第1図 那覇市の位置と鏡水真隅原C遺跡の位置

(S = 1/50,000)



第2図 鏡水真隅原C遺跡の位置と周辺の遺跡(概略図)

(S = 1/6,000)





遺跡の遠景

北西から



東から



南西から



発掘調査作業の状況と  
基本的な土層の堆積

発掘調査作業の開始  
(N～P-6～9グリッド付近)



縄文時代前期相当期の貝塚検出作業  
(I・J-8・9グリッド)



土層堆積状況  
(I-10～12グリッド北側)



縄文時代早期相当期の遺物・  
遺構検出状況

爪形文土器  
(J-7グリッド)



獣骨(イノシシ)  
(K-7グリッド)



焼土遺構  
(J-8グリッド)



縄文時代前期相当期の遺物・  
遺構検出状況

大型の斧形石器  
(G-13グリッド)



前期土器  
(I-10グリッド)



貝塚検出状況と測量状況  
(I・J-8・9グリッド)



弥生時代～平安時代相当期の遺物・  
遺構検出状況と作業状況

貝塚出土状況  
(H～L-12～17グリッド付近)



土器・石器・貝類  
(I-13グリッド)



平板実測作業及び掘下げ作業  
(J～M-17～21グリッド付近)



グスク時代以降の遺構  
検出状況

ビット群  
(N～Q-5～9グリッド)



鋸跡の半裁状況  
(O-7グリッド)



溝状遺構  
(K・L-10～12グリッド)



委託業務の作業状況と  
不発弾処理作業

空中写真撮影の委託業務



磁気探査の委託業務



不発弾処理の状況



那覇西道路建設予定地内の  
試掘調査及び現地踏査の  
状況

箕隅原A遺跡  
(遺物包含層の検出状況)



箕隅原B遺跡  
(貝層の確認)



箕隅原D遺跡  
(銀跡検出状況)





縄文時代早期相当期の  
出土遺物

爪形文土器



刃部磨製の斧形石器



獣骨(イノシシ・海獣)



縄文時代前・中期相当期の  
出土遺物

前期土器



中期土器



大型の斧形石器



弥生時代～平安時代相当期の  
出土遺物

土器



石器



貝製品



グスク時代以降の出土遺物

中国産磁器



本土産陶磁器



銭貨及びガラス製小玉